

FOMC（7月28・29日）の評価と市場動向

ハト派姿勢に変化なし 低金利長期化を示唆、資産買い入れを継続

- 金融政策：政策金利を据え置き、現在の資産買い入れ（国債800億ドル、MBS*400億ドル）を継続
- 景気見通し：足元の経済指標改善ペース鈍化に言及、先行きに慎重な見方を維持
- 市場への含意：低金利長期化示唆で金利・ドルに下押し圧力。株式はハト派姿勢継続を好感

■ゼロ金利政策と資産買い入れの継続を決定

【FOMC*声明文とパウエルFRB*議長記者会見】

- 1. 政策金利：**全会一致で政策金利据え置きを決定、声明文では“雇用・物価目標達成に目処が着くまで現行の政策金利を据え置く”との従来文言を踏襲。記者会見では、前回同様「利上げを考慮することなど考えていない」と発言、ゼロ金利政策の長期化を改めて示唆。
- 2. 資産買い入れ：**現在の1200億ドル/月ペース（国債800億ドル+MBS400億ドル）での資産買い入れを今後数カ月継続するとの前回決定を維持。
- 3. 景気見通し：**声明文で“経済の先行きはウイルスの動向に大きく左右される”との文言を追加。記者会見では、「発表頻度の高い指標の改善ペースは鈍化している」とし、新型コロナウイルス感染拡大により不確実性が高まっているとの認識を強調。
- 4. フォワードガイダンス：**声明文では、“米経済を支えるため、あらゆる手段を用いる”との文言を踏襲。今後も緩和的な金融政策を維持し、景気下振れリスクが高まる際は、追加緩和に動く姿勢を示す。

■市場は「市場に優しいFRB」の長期化を期待

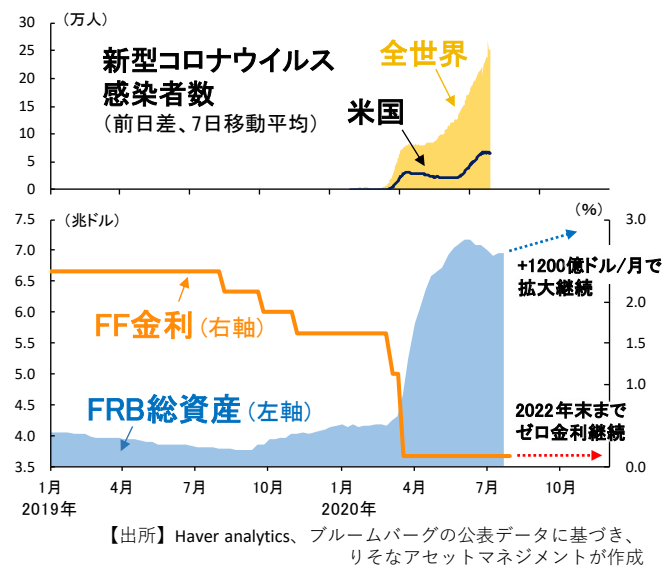
29日の米国市場では声明文の発表後、金利低下が進み、ドル・インデックスは2018年9月以来の水準まで低下しました。緩和的な金融政策が長期化するとの見方が強まったものと見られます。

米国株式は引けにかけ一段高となりました。このところ感染拡大による景気鈍化を懸念し上値の重い展開が続いていた株式市場ですが、「景気鈍化」は「より強固な金融緩和」で相殺されると解釈したようです。

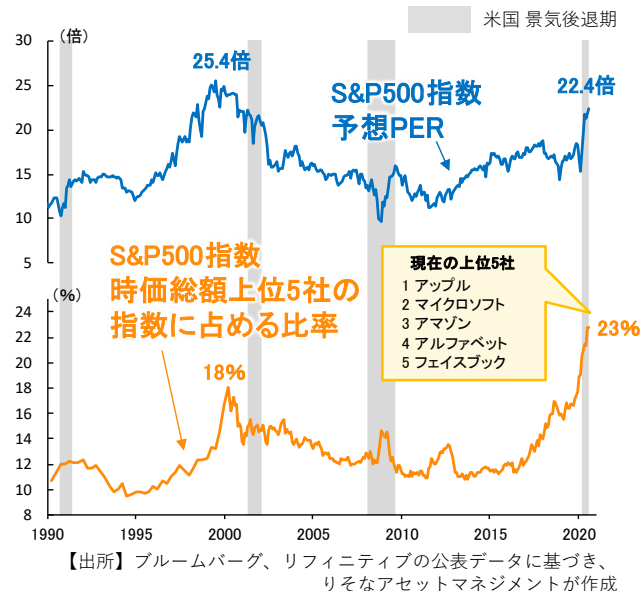
現在の株式市場は、割高なPER*、一部のテクノロジー企業への物色集中など、90年代末のITバブル相場との類似性が指摘されます（右図）。ITバブル相場は、FRBの利上げによって終わりましたが、パウエル議長の言葉を借りれば、現在、同様の展開は考えもつかないことになります。“市場に優しいFRB”が続き、相場の過熱が一段と進むリスクを注視する必要があります。

運用戦略部 投資戦略グループ 岩井 真子

図表1. 新型コロナウイルス感染者数とFRBの政策



図表2. S&P500 PERと時価総額上位5社の比率



〈用語説明〉

- *MBS … 不動産ローン担保証券（Mortgage Backed Securities）。不動産ローンを裏付けとして発行される金融商品。
- *FOMC … 連邦公開市場委員会（Federal Open Market Committee）。金融政策決定会合にあたる。
- *FRB … 連邦準備制度理事会（Federal Reserve Board）。米国の中央銀行にあたる。
- *PER … 株価収益率（Price Earnings Ratio）。株価を一株当たり利益で割ったものであり、株式の割高/割安感の指標。

〈本資料に関するご留意事項〉

本資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。

投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします「投資信託目論見書（交付目論見書）」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。